ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会

Robot Revolution & Industrial IoT Initiative

To Survive by agile and open value creation.

ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会

RRIとは（ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会）

ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会は、「ロボット新戦略」（2015年2月10日日本経済再生本部決定）に基づき、同戦略に掲げられた「ロボット革命」を推進するために、民間主導で設立された組織的プラットフォームです。

本協議会は、ロボット新戦略の本旨に基づき、デジタル化及びネットワーク化を活かしつつ高度のセンサーや人工知能を駆使して作業を行うシステム全般を、新たな「ロボット」の概念として広く位置づけ、その開発・普及を通じて我が国が直面する社会的課題の解決に資するとともに、我が国がロボット分野での先進的なイノベーション拠点としてIoTをはじめとする世界的な技術と産業の変革の潮流において先導的な役割を果たすことを目指します。本協議会は関係する事業者団体、企業、学会、研究機関等が広範に参加し、政府関係省庁と連携しつつ、取り組むべき課題及び課題解決のための行動を共有し、IoT時代に即応したロボット新戦略の推進を横断的に図ることを目的としており、以下を目標と致します。

①日本を世界のロボット・イノベーション拠点へ　～ ロボット創出力の抜本的強化
②世界一のロボット利活用社会の実現
③IoT時代におけるロボットで世界をリードするイニシアティブの発揮

事業目標

ロボット新戦略などで掲げる目標及び目標達成のために行うべき事業は以下の通りです。

事業目標

ロボット新戦略などで目指す以下の三つの柱の実現を目指す。

①ロボット創出力の抜本強化
　日本を世界のロボットイノベーションの拠点とする
②ロボットの活用・普及（ロボットショーケース化）
　世界一のロボット利活用社会を目指し、日常の隅々にまでロボットの普及を図る
③IoT、ロボットによるものづくりや製造ビジネスの変革
　ものづくりに関するIoT、ロボットで、世界をリードしていくためのルールや国際標準の獲得を図る

目標達成のために実施する事業

1）ロボットイノベーション及びロボット利活用推進に関する課題解決に資する関係者のマッチング、ベストプラクティスの共有・普及の推進
2）国際標準化活動の推進に向けた情報共有、共有課題の整理及び対応策の企画・立案
3）情報セキュリティ確保策の企画・立案
4）国際プロジェクト等の企画・立案
5）実証試験のための環境整備
6）人材育成のための企画・立案
7）関係機関との連携による研究開発、規制改革等の推進
8）国際連携を含めた関連情報の収集・発信、普及・啓発事業の推進
9）その他本協議会の目的を達成するために必要な事業

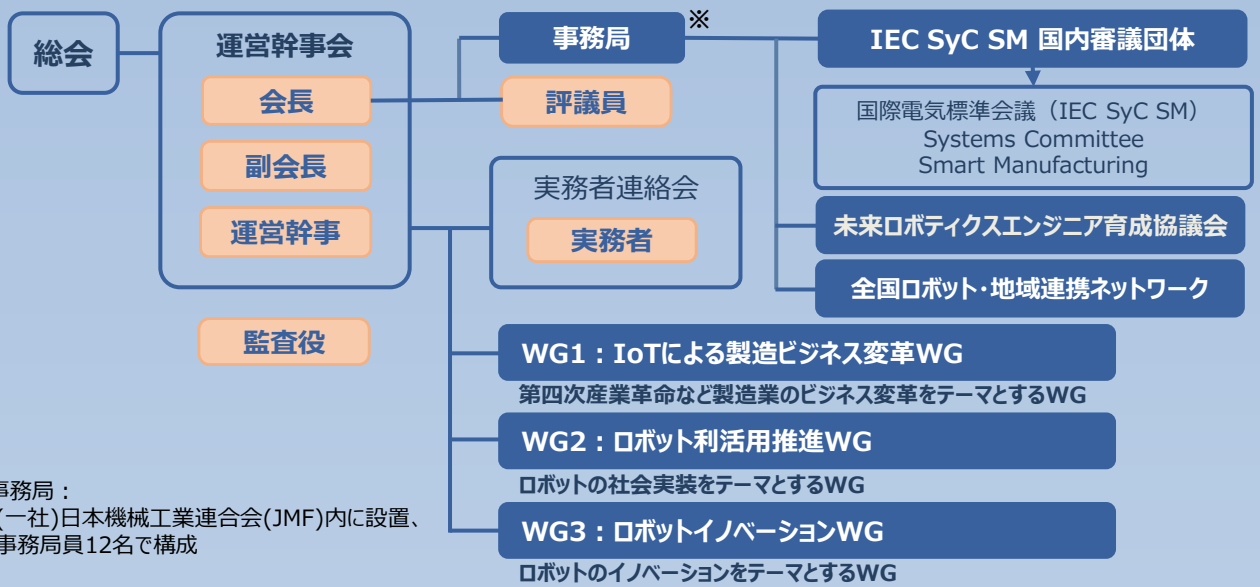
設立の経緯

2014年5月　OECD閣僚理事会にて安倍総理(当時)が
　　「ロボットによる新たな産業革命を起こす」と表明
2014年9月　「ロボット革命実現会議」発足（首相官邸）
2015年2月　「ロボット新戦略」決定（日本経済再生本部）
　　「ロボット革命イニシアティブ協議会」設立を宣言
2015年5月　「ロボット革命イニシアティブ協議会」創立総会
　　団体・企業・個人計226会員(発足時点)
2020年6月　組織名称を「ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会」に改定
　　（2025.5.1時点の会員数：413会員）

2015年　創立記念懇親会（安倍総理(当時)ご挨拶）

出典：政府広報オンライン「ロボット革命イニシアティブ協議会創立記念懇親会-平成27年5月15日」を加工して作成

組織体制



※事務局：
(一社)日本機械工業連合会(JMF)内に設置、
事務局員12名で構成

主要メンバー（運営幹事等）

会長

(一社)日本機械工業連合会	会長	東原　敏昭（(株)日立製作所　取締役会長　代表執行役）

副会長

(一社)電子情報技術産業協会	会長	漆間　啓（三菱電機(株)　代表執行役　執行役社長　CEO）
(一社)日本電機工業会	会長	漆間　啓（三菱電機(株)　代表執行役　執行役社長　CEO）
(一社)日本ロボット工業会	会長	橋本　康彦（川崎重工業(株)　代表取締役社長執行役員）

運営幹事

i) 事業者団体

(一社)情報通信ネットワーク産業協会	会長	森川　博之（東京大学）
(一財)製造科学技術センター	理事長	鮫嶋　茂稔 ((株)日立製作所　執行役常務　CTO兼研究開発グループ長)
全国農業協同組合連合会	代表理事専務	安田　忠孝
(公財)テクノエイド協会	理事長	三浦　公嗣
(一社)電子情報技術産業協会	会長	漆間　啓　（三菱電機(株)　代表執行役　執行役社長　CEO）
(一社)日本機械工業連合会	会長	東原　敏昭（(株)日立製作所　取締役会長　代表執行役）
(一社)日本機械工業連合会	副会長	綱川　智　（(株)東芝　特別顧問）
(一社)日本機械工業連合会	副会長	斎藤　保　（(株)ＩＨＩ　特別顧問）
(一社)日本機械工業連合会	副会長	宮永　俊一（三菱重工業(株)　名誉顧問）
(一社)日本機械工業連合会	副会長	金花　芳則（川崎重工業(株)　取締役会長）
(一社)日本建設業連合会	副会長	押味　至一（鹿島建設(株)　代表取締役会長）
(一社)日本工作機械工業会	会長	坂元　繁友（芝浦機械(株)　代表取締役社長）
(一社)日本産業機械工業会	会長	金花　芳則（川崎重工業(株)　取締役会長）
(一社)日本電機工業会	会長	漆間　啓　（三菱電機(株)　代表執行役　執行役社長　CEO）
(一社)日本ロボット工業会	会長	橋本　康彦（川崎重工業(株)　代表取締役社長執行役員）
(一社)日本機械工業連合会	副会長兼専務理事	田川　和幸（RRI事務局担当）

ii) 企業

NTTドコモビジネス(株)	代表取締役副社長	工藤　晶子
オークマ(株)	代表取締役社長	家城　淳
日本電気(株)	取締役会長	新野　隆
(株)野村総合研究所	取締役会長	此本　臣吾
パナソニック ホールディングス(株)	代表取締役　社長執行役員　グループCEO	楠見　雄規
ファナック(株)	代表取締役社長兼CEO	山口　賢治
富士通(株)	執行役員専務	髙橋　泰三
三菱電機(株)	専務執行役員	日下部　聡
(株)安川電機	代表取締役社長	小川　昌寛

監査役

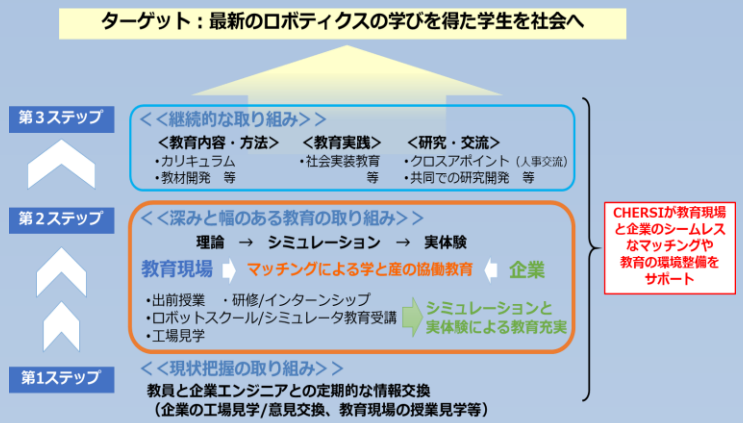
(一社)日本電気計測器工業会	会長	奈良　寿（横河電機(株)　取締役会長　代表執行役）

未来ロボティクスエンジニア育成協議会(CHERSI)の活動

経済産業省主導のもと、産学連携のロボットに関連する人財育成協議会を2020年6月RRIに設立し活動しています。

産業界からはロボットメーカー７社と、ロボットシステムインテグレータ協会が参画し、最新の技術動向、シーズを教育機関に提供しています。

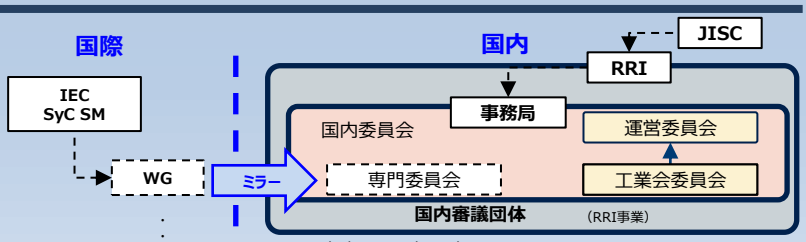
教育機関等からは、(独)国立高等専門学校機構、全国公立高等専門学校協会、(公社)全国工業高等学校長協会、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構が参画しています。



CHERSI：The Consortium of Human Education for Future Robot System Integration

国際標準化の活動

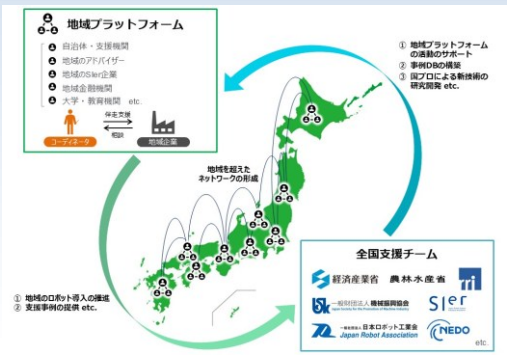
スマートマニュファクチュアリング分野の国際標準化に貢献するため、RRIは、IEC Systems Committee Smart Manufacturingの国内審議団体の運営をJISCより引き受け、国内委員会、運営委員会、工業会委員会、及び専門委員会を運営しています。



IEC：International Electrotechnical Commission　**SyC**：Systems Committee
SM：Smart Manufacturing　**JISC**:日本産業標準調査会

全国ロボット・地域連携ネットワーク（RINGプロジェクト）の活動

経済産業省、各地域の自治体や支援組織、ロボット関係機関等が連携し、ロボット導入支援の取組を加速させるための協議会である「全国ロボット・地域連携ネットワーク（略称RINGプロジェクト）」を設立しました。
本協議会では、各地域のロボット導入支援の取組を、国を挙げてサポートする仕組みを整備し、効果的な支援体制の確立や全国の支援ノウハウの共有等を図り、こうした取組を通じて全国各地でロボットを効果的に活用し、人手不足下でも持続可能な地域社会の実現を目指します。



連携組織

「ロボット新戦略」、「ロボットによる社会変革推進計画」、「Connected Industries」“ものづくり・ロボティクス”分野の推進母体として、以下の国内外の組織と連携して活動を推進しています。

国際コミュニティ
- Plattform Industrie 4.0
- GAIA-X
- International Data Spaces Association
- International Open Forum on Data Society
- Clean Energy Smart Manufacturing Innovation Institute
- Industry IoT Consortium
- Alliance Industrie de Futur
- Confederation of Industry of the Czech Republic

RRI
413 会員
（企業 / 団体 / 有識者/ 研究機関・学会/ 地方自治体）

政府/ 研究開発機関
- 経済産業省
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所
- 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
- 独立行政法人情報処理推進機構／デジタルアーキテクチャ・デザインセンター

関連工業会・団体
JEMA　JEMIMA　JEITA　JMF
JMTBA　JSIM　MSTC　NECA
JARA　CIAJ　JAMA　JAPIA
DSA　IVI　DPFJ　JDTF

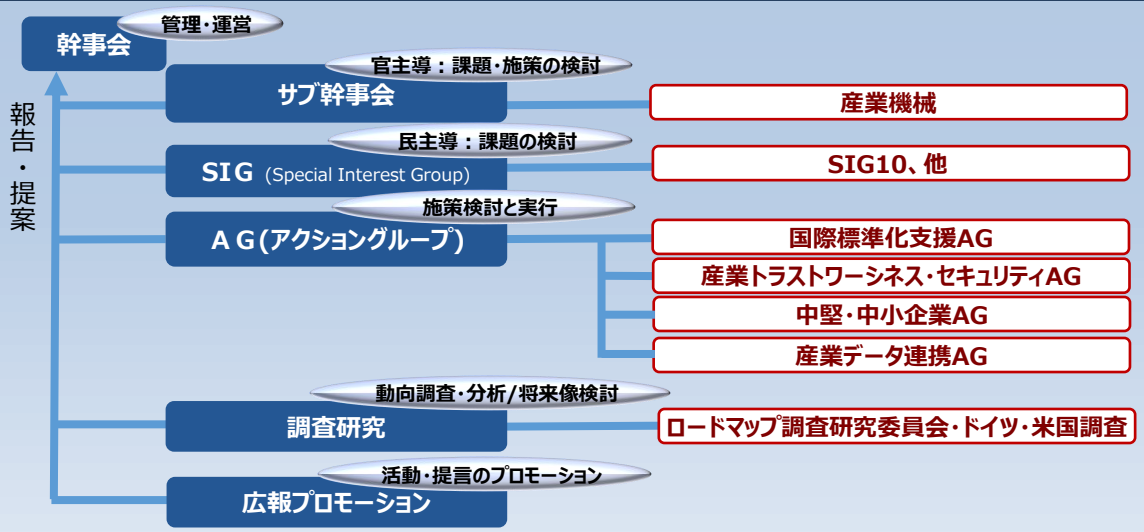
JEMA：一般社団法人 日本電機工業会、JEMIMA：一般社団法人 日本電気計測器工業会、JEITA：一般社団法人 電子情報技術産業協会、JMF:一般社団法人　日本機械工業連合会、JMTBA：一般社団法人 日本工作機械工業会、JSIM：一般社団法人 日本産業機械工業会、MSTC：一般財団法人 製造科学技術センター、NECA：一般社団法人 日本電気制御機器工業会、JARA：一般社団法人 日本ロボット工業会、CIAJ：一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会、JAMA：一般社団法人 日本自動車工業会、JAPIA：一般社団法人 日本自動車部品工業会、DSA：一般社団法人 データ社会推進協議会、IVI：一般社団法人 インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ、DPFJ:デジタル政策フォーラム、JDTF:一般社団法人 デジタルトラスト協議会

IoTによる製造ビジネス変革WG（WG1）

WG1の目的

製造業分野において、デジタル化の活用と上流を含めた自動化で生産性を高め、かつ、加速するイノベーションにより、世界と日本をSociety5.0にふさわしい豊かさにできるよう、産業革命を推進します。そのために、高次かつ横断的に、全体俯瞰をしながら、本質的な課題の抽出と、それに対するConnected Industriesの具体策をシステム的、体系的、科学的に議論していきます。この過程を通して自律した解決活動を生み出す場を創出します。

WG1の構成



WG1の主な活動

1．情報共有とグループ活動

1）国内・国際の動向、事例の共有
　・ものづくりにおける標準化ロードマップやデータ品質向上検討 他
2）国際動向の調査、分析
3）ユースケース調査（収集と公開）
4）中小企業支援（中小企業の支援者のネットワーク化）
5）分野別の課題、施策の検討（産業機械）
6）テーマ別の課題検討（SIG）
　・ものづくりにおけるデータ連携・流通の検討 他
7）調査研究
　・ロードマップ調査研究委員会
　・ドイツ・米国調査、他

ロボット革命・産業IoT国際シンポジウム 2025

2．国際連携

1）国際連携
　①日独連携（専門家会合）
　　国際標準化、産業セキュリティ、ビジネスエコシステム
　②他の主要国との連携（米国、アジアなど）
2）国際連携成果の公表
　国内（国際シンポジウム：秋）、国際（ハノーバーメッセ：春）の場にて連携成果を発表
3）各種ワークショップ
　海外の連携団体との共催、及び国際の専門家を招聘したワークショップ開催
4）海外の連携団体との連携協定の締結（Plattform Industrie 4.0、IIC、IDSA、CESMII、他）
5）国際展示会での情報発信（ハノーバーメッセなど）

3．国内連携

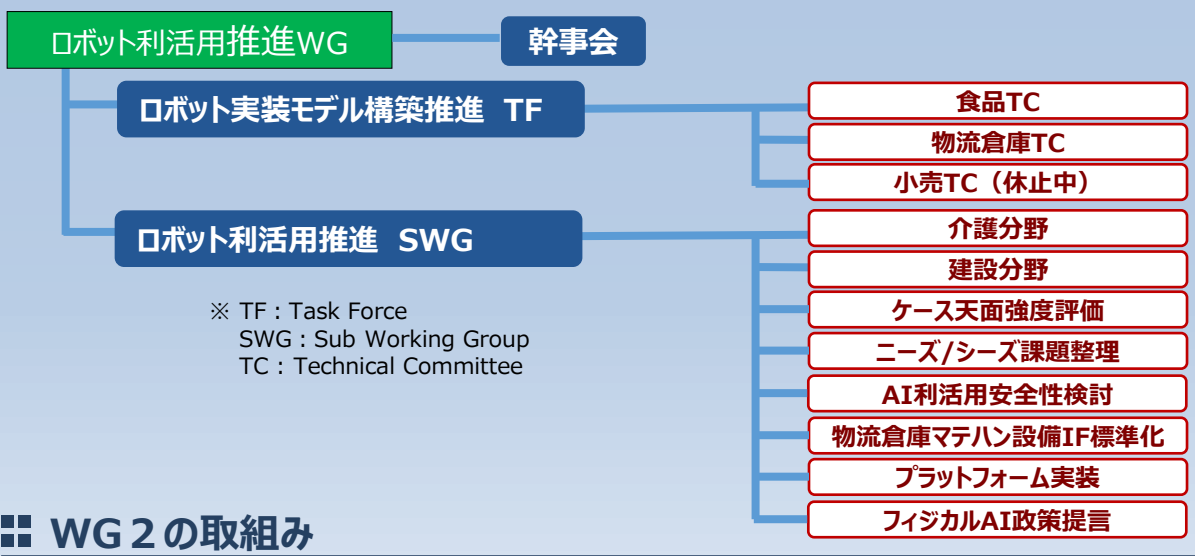
・関連する工業会、協会、学会などと連携し、セミナーや展示会などを介し、課題の議論と活動の普及啓蒙

ロボット利活用推進WG（WG２）

WG２の目的

ロボット活用を進める重点分野において、利活用を加速させるために有効な分野横断的な具体的な仕組みを構築します。

WG２の構成



※ TF : Task Force
SWG : Sub Working Group
TC : Technical Committee

WG２の取組み

１．ロボット実装モデル構築推進TF

ロボットフレンドリーな環境構築の実現に向けた取組みを、各分野に係るテクニカルコミッティ（TC）にて実施しています。各TCでは、リーディングユーザーが主導し、ロボットメーカーやシステムインテグレータと協働した委員構成で、ロボットフレンドリーな環境構築に関する規格・標準化の検討等を実施することを通じて、ロボットユーザー側の既存の業務プロセスや環境等を見直し、ロボット実装モデルを構築していきます。

１）食品TC　　最も機械化が遅れ、人手不足の惣菜製造業の機械化を推進
惣菜や弁当の盛付ロボットシステムなどを開発中

２）物流倉庫TC　標準化の認知度をあげる活動を実施

２．ロボット利活用推進SWG

ロボットの更なる普及促進に向けて、分野ごとあるいはテーマに応じたロボットに関する情報やノウハウの共有、標準化などの協調領域に関する活動を推進しています。

１）介護分野　　施設内の介護データを活用し、リスクや効果を予測するための研究を実施

２）建設分野　　建築用テストフィールドの不足という課題を解消するための取り組みを継続

３）ケース天面強度評価　　ロボフレに資する段ボールケースの天面強度設計の考え方をフォーラムスタンダード化することをゴールに活動を推進する

４）ニーズ/シーズ課題整理　　大学など研究開発側に，ユーザニーズ情報が十分に伝達できていないことなどの課題に対して、研究開発側とユーザ側の相互情報交換を活性化する。

５）AI活用安全性検討　　ロボティクス分野のAIセーフティを確保するため、AISIと連携し、現場での実証を行い、評価・実施結果分析を実施する

６）物流倉庫マテハン設備IF標準化　　物流倉庫内の自動設備に関わる通信規格、I/Fの標準化を実施することにより開発の効率化、データ運用の最適化を図る

７）プラットフォーム実装　　NEDO「ポスト５Ｇ情報通信システム基盤強化研究開発事業（ロボティクスソフトウェア開発プラットフォーム）」におけるデバイスI/Fの共通化・標準化を検討

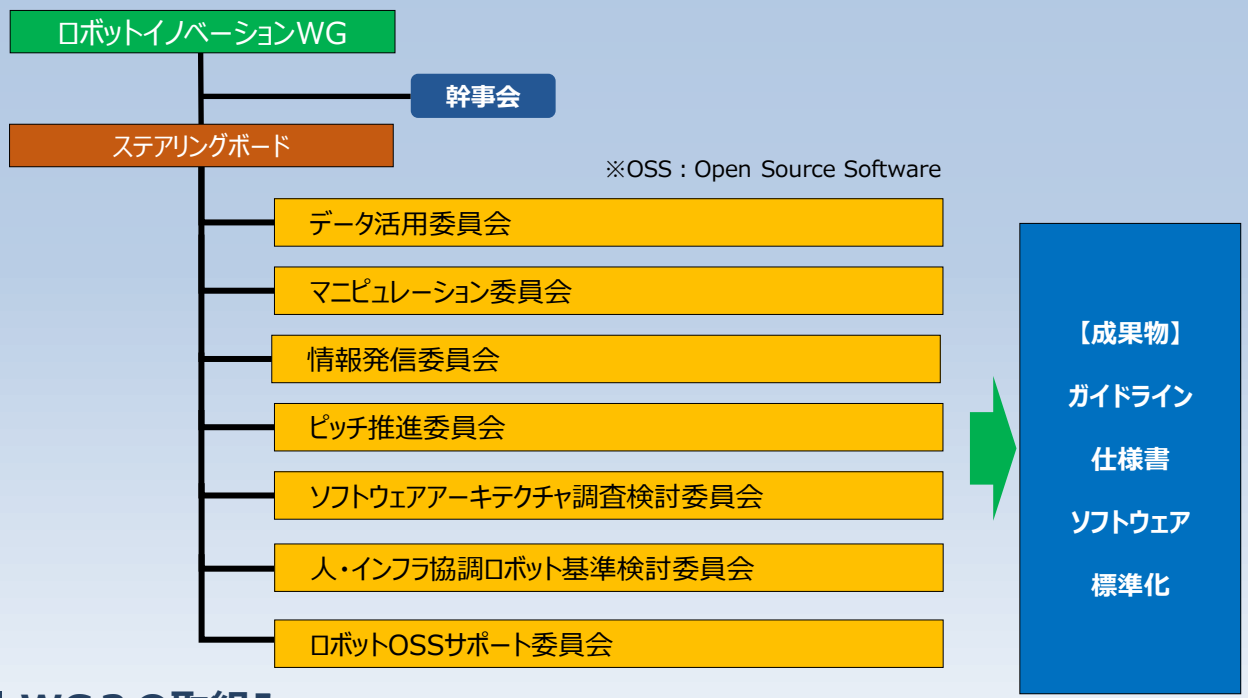
８）フィジカルAI政策提言　　エンジニアリングチェーンにおけるフィジカルAIについてCOCNと連携して、日本が取るべき施策や制度を検討

ロボットイノベーションWG（WG３）

WG３の目的

（１）次世代ロボット開発やロボット利活用の裾野を広げるため、大学の有識者の皆様や企業の皆様と議論しています。
（２）国際展開を見据えたルール及び標準化を検討します。

WG３の構成



WG３の取組み

委員会	活動内容
データ活用	• 一部検討され始めているロボフレの範囲を拡大すべく、ロボフレが実行されている複数の分野の事例をヒアリングし、これらをガイドブックとして取り纏める。 • 生成AI活用、データ活用の好事例に関しても同様にガイドブックに加える。
マニピュレーション	• 中小企業含めてロボット導入が広がりつつある中で、各種用途に対するロボットハンドの設計力低下が課題となっている。2024年度はハードのガイドブック（基礎編、応用編）を作成した。2025年度はアーム・ハンドの動かし方に注目して議論し、ガイドブックに追記して行く。
情報発信	• IROS、ICRAなどの著名な学会の中で注目すべき論文を抽出して、ロボットの世界のトレンドの変化を議論し、これを会員に発信する。
ピッチ推進	• 光る技術を持つスタートアップと、量産や保守の技術を持つRRI会員のロボット関連メーカを結びつけ、オープンイノベーションを加速する。
ソフトウエアアーキテクチャ調査検討	• 複数台ロボットの運用管理、人協調マニピュレーション、安全の各分野に関してソフトウエアアーキテクチャの仕様化・標準化を推進する。
人・インフラ協調ロボット基準検討	• サービスロボットと歩行者・インフラ（施設・設備）との連携を含む形で、ロボットの賢さ・性能を評価し、その手法を標準化する。
OSSサポート調査検討	• ROS他OSSの関連情報を収集し、共有する。 • 委員メンバー企業のソースのオープン化を支援する。

ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)

〒169-0075
東京都新宿区高田馬場1-31-18　高田馬場センタービル12階
（一般社団法人　日本機械工業連合会　内）
TEL: 03-6302-1861　FAX：03-6302-1862
URL：https://www.jmfrri.gr.jp/

最寄りの交通機関

JR 山手線・西武鉄道新宿線・・・・高田馬場駅下車・戸山口　徒歩 5分
東京メトロ東西線・・・・・・・・・・・・・・高田馬場下車・3番出口　徒歩 7分
東京メトロ副都心線・・・・・・・・・・・・西早稲田駅下車・2番出口　徒歩 8分

RRI入会のご案内

RRIでは、常時、会員を募集しています。
入会のメリット・資格・手続き等は、以下のRRIホームページの
「入会案内」で参照できます。
https://www.jmfrri.gr.jp/joinusmes

RRI YouTubeチャンネル

国際シンポジウムなどのアーカイブを公開しています。
https://www.youtube.com/@rrichannel7742

To Survive by agile and open value creation.

2025. 11